

昭和大学学士会後援セミナー

第6回薬理科学研究センター主催セミナー



2024年10月22日(火)11:00-12:00

がん抑制遺伝子による発がん制御

演者 前濱 朝彦 先生

昭和大学医学部生化学講座
教授

会場 昭和大学旗の台キャンパス
2号館 第5講義室



がんの発症進展には様々ながん抑制遺伝子に関わるが、その中でもp53やPTENは特に高い頻度で変異が見つかる重要ながん抑制遺伝子である。さらに近年では多くのがんで活性化が見つかる転写共役因子YAP/TAZを抑制するHippo経路が新たながん抑制経路として注目されている。私の研究グループではこれらp53、PTEN、Hippoといった三つの重要ながん抑制遺伝子・経路に着目した研究を行い、これまでに以下のような知見を得た。

(1) p53に対する新たな制御経路の分子メカニズムおよびその異常に起因する病態を明らかにし、さらにこの経路を標的とする薬剤開発の可能性を示した。

(2) PTENのがん抑制因子としての作用機序を明らかにしたほか、PTENに対する制御因子を新たに見出し、これら因子の阻害からPTEN再活性化を引き出す新たながん制御の可能性を見出した。

(3) Hippo-YAP/TAZ経路が舌がん、子宮頸がん、トリプルネガティブ乳がんなどのドライバー因子であることを見出し、新たな抗がん薬標的として有望であることを示した。

本講演では、これらに関する最新の知見を紹介し、新たな共同研究に向けたこれら研究リソースの魅力について議論したい。

主催・お問い合わせ

薬学部 基礎医療薬学講座 毒物学部門

宇佐美 夏実 n_hattori@pharm.showa-u.ac.jp